

活動報告

<活動テーマ>

感触

<設定理由>

- ・砂場が園庭にあり、ホールや屋上といった広い場所が園内にはいくつあることで、ダイナミックに行うことができる環境を活かし「感触」をテーマと設定し、夏の暑い時期にピークを迎える感触遊び、様々な素材を通しての子ども達の興味・関心をさらに深めていくため。
- ・様々な素材に触れ感触を楽しむと共に、感受性や表現力を豊かにしていくため。

<活動スケジュール>

- ①7/28 新聞遊び
- ②8/12 泥遊び
- ③8/25 寒天遊び
- ④9/8 絵の具遊び

<活動内容①>

令和25年7月28日 新聞遊び

<準備品>

新聞紙、ビニール袋、油性カラーペン、すずらんテープ、はさみ

<活動の流れ>

講師の真似をして新聞紙を折ったり、傘や布団、雑巾、メガホンなどに見立てて遊ぶ。

その後、ちぎる・丸めるといった指先や腕を使って遊ぶ。

最後にちぎったものをビニール袋に詰めてビニール袋を封してから油性ペンで顔を描き、すずらんテープ付けて、ペットにして遊ぶ。

<子どもの様子>

・素材の感触を丁寧に使い方を聞いていくことでじっくりと楽しんだ後、自由にちぎったり握る工程があることで、のびのびと遊んでいた。

・袋に詰める工程では徐々に膨れていくことでビニールの感触も楽しんでいた。

・袋に顔を描いたり、すずらんテープを付けることで新聞で作った袋に愛着をもって扱っていた。

また、さらに名前も付けてより大切に抱えたり、散歩と称して引っ張って遊んでいた。

<子どもの声>

・布団にみたと「かぜひかないように 肩までいれなきゃ！」と被ったり、友だちに「あしでてるよ、さむいよ！」と声をかけていた。

・ペット同士を自己紹介させたり、挨拶させて、人形遊びのようになり、医者ごっこなどに展開していた。



<振り返り>

すぐにちぎり遊びをすることも多いが、素材の質感をじっくり遊ぶことで、その後の活動もじっくりと進めていた。また、大袋での片づけでなく、個々で集められる袋を用意したことで、愛着も増して、継続して遊び続ける姿があった。

<活動内容②>

令和25年8月12日 裸足・砂・泥遊び

<準備品>

着替え、水、足洗い用タライ、砂場道具

<活動の流れ>

園庭に芝生もあるので、芝生と砂の感触を裸足で楽しんだ後、水を提供し、泥遊びへ展開していった。

<子どもの様子>

芝生での遊びを楽しみ続ける児もいれば、泥で山や穴を掘ってそこに水をためる、または溝に水がながれて行くことに気づく児もいた。

<子どもの声>

- ・芝生から砂のゾーンに移ると「つめたい」と声を上げていた。
- ・浅い溝に水が流れていくのを見つけ「かわになってる」「もっとながいのつくろう」



<振り返り>

泥への抵抗感が強い児が数名いた。ダイナミックに遊ぶ児がいたので、段階的に遊べるような環境も用意することで、もっと各々のペースで遊べたかもしれないと感じた。感触遊びが苦手な児に対しての策をもう少し組んでおくようにしたい。

<活動内容③>

令和25年8月25日 寒天遊び

<準備品>

寒天3色、タライ、スモック、雑巾、ゼリーカップや小皿など、スプーンやれんげ
感触を手で楽しむだけでなく、ごっこ遊びにも展開できるように小皿なども用意していく。

<活動の流れ>

目の前で寒天を見せて紹介するところから4グループほどに分けて個々が楽しめる環境のもとおろした。

<子どもの様子>

始めは表面のツルツルとした感触を楽しみ、少しずつ、ちぎる・握る・潰すというように徐々に変わる感触を味わい、細かくなると皿などに掬い集めることを楽しみ始め、その後自然とごっこ遊びに展開していった。

<子どもの声>

- すくって「宝石みたい」と光に当てて喜んでた。
- 「いらっしゃいませ～」とかき氷屋やアイス屋に扮してやりとりを楽しんでいた。
- タライの大きさも相まって栄養士になりきり「給食さん（栄養士）みたいにたくさん作るんだ」となりきって盛り付けるようにカップに掬っていた。



<振り返り>

ただ感触を楽しむだけでなく、お店屋さんごっこなども展開できたのは良かった。それだけでなく、部屋が給食室と近く、日常的に給食を作っているところを見ていたり、鍋の大きさも基本的な知識としてあったことで、なりきり遊びも楽しめたことに身の回りのことに関心をもって生活していることが分かり、心の成長が感じられた。

<活動内容④>

令和25年9月8日 絵の具遊び～立体物に筆や手で絵の具を塗ろう～

<準備品>

段ボール、絵具、筆、バケツ、雑巾、シート、スモック

思いきり絵の具を使えるように、保育室前面にシートを敷き、子どもが存分に絵の具を楽しむ環境設定にした。また、各自が達成感が得られるように段ボールを大きさや数のある程度の量を揃えた。

<活動の流れ>

後期に子ども達とみんなで大きな乗り物を作ろうと計画しており、そのパーツ作りをしようということで段ボール塗りをした。始めは筆で塗っていたが、これまでにフィンガーペイント・ハンドペイントと段階を踏んで慣れ親しんでいたことで、今回も途中から子ども達の発信で手でも塗り広げていった。

<子どもの様子>

- 筆の扱いに慣れるまではそーっと塗っていたが、慣れてくるとダイナミックになっていった。筆で塗っていた際に、足や手につき、始めは汚れを気にしていたが、手で塗り広げ、徐々に汚れとしてではなく、自ら手足を塗って楽しんでいた。
- 線を描くことを楽しむ。端からきれいに塗りつぶしていく等、個々に楽しみを見つけていた。

<子どもの声>

- 絵の具が足や手につくと「つめたーい」と言って驚きつつ喜びの声をあげていた。
- 手で段ボールに塗り広げながら「きもちいーい」と滑る感覚を楽しんでいた。
- 「こっちがまだだよ」「どっちが先にできる!？」と競うように塗っていた。



<振り返り>

筆で絵の具が伸びていく感覚を楽しみ、最後まで筆にこだわり塗りつぶすことを楽しむ児と、手や足に塗る楽しさ、絵具自体の感触を楽しむ児と楽しみは当然様々で、中には感触が苦手な児もいるので、それぞれのペース遊べるように環境を作れたのは良かった。